

岡山県新型コロナウイルス感染症対策本部会議（第75回）

日時：令和4（2022）年11月17日（木）

9：20～

場所：県庁3階 大会議室

議事次第

1 開会

2 議題

新型コロナウイルス感染症対策について

3 閉会

岡山県新型コロナウイルス感染症対策本部会議（第75回）出席者

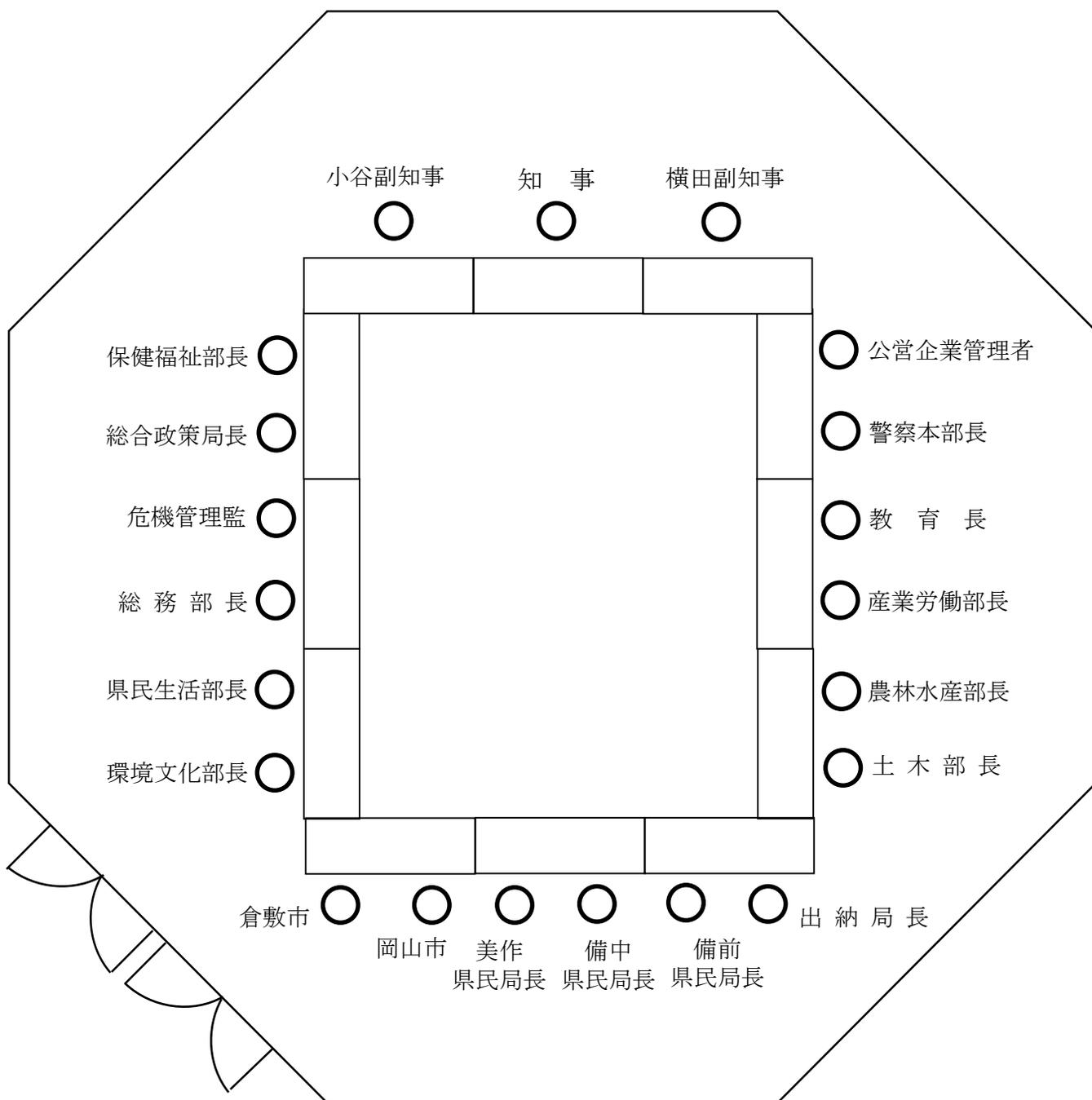
日時：令和4（2022）年11月17日（木）

9：20～

場所：県庁3階 大会議室

出席者	備考
知事	本部長
副知事	副本部長
副知事	〃
危機管理監	本部員
総合政策局長	〃
総務部長	〃
県民生活部長	〃
環境文化部長	〃
保健福祉部長	〃
産業労働部長	〃
農林水産部長	〃
土木部長	〃
出納局長	〃
備前県民局長	〃
備中県民局長	〃
美作県民局長	〃
公営企業管理者	〃
教育長	〃
警察本部長	〃
岡山市保健福祉局 感染症対策担当局長 宮地 千登世	本部員以外
倉敷市総務局防災危機管理室 参事 大本 進	〃

岡山県新型コロナウイルス感染症対策本部会議 配席図



資料

新型コロナウイルス感染症対策について

○ 保健福祉部関係

- ・岡山県の感染状況、ワクチン接種状況
- ・新型コロナウイルス感染症・季節性インフルエンザ同時流行に備えた対応
- ・オミクロン株対応ワクチンの接種促進
- ・オミクロン株対応ワクチン接種強化期間
- ・新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザの同時流行を見据えた知事メッセージ

岡山県の感染状況

ワクチン接種状況

保健福祉部

令和4(2022)年11月17日
新型コロナウイルス感染症対策室

直近1週間の岡山県の状況(11/9~11/15)及びレベル判断

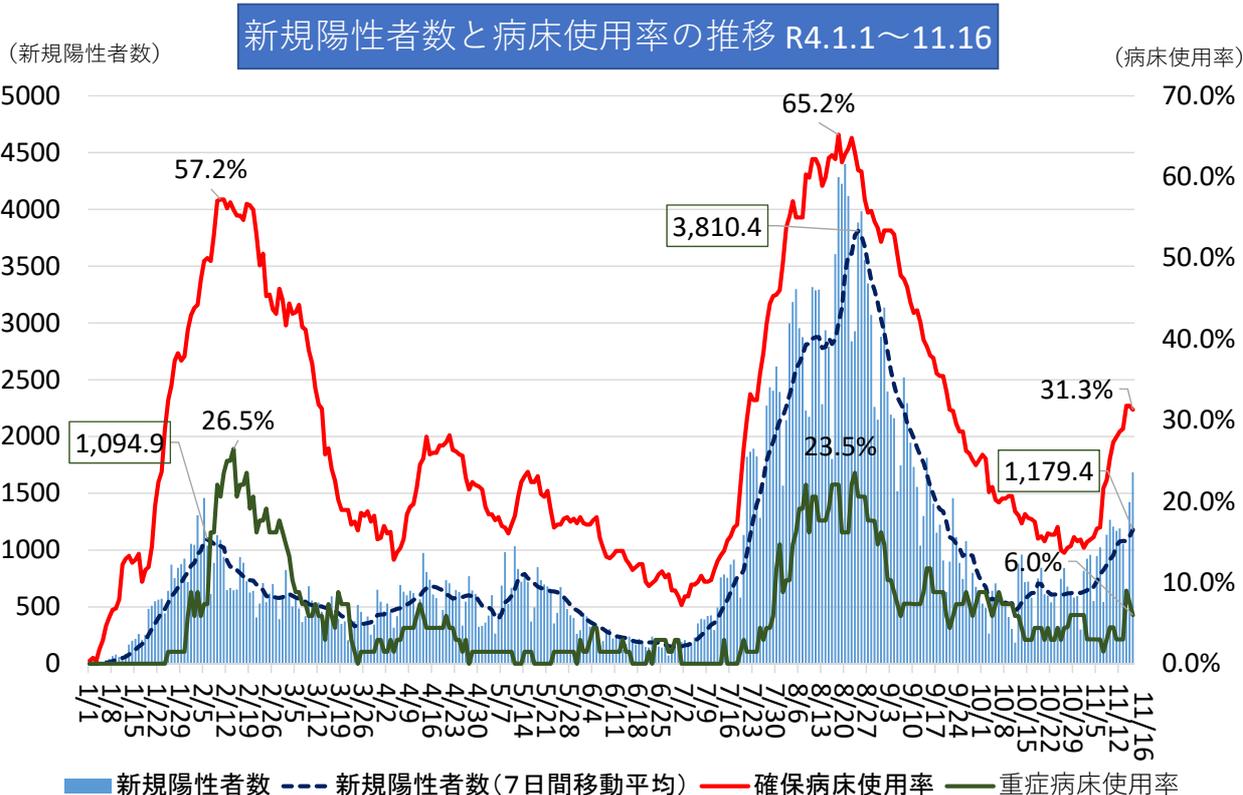
※速報値

総合的判断	レベル2
-------	------

区分	確保病床使用率		新規陽性者数		PCR等陽性率	10万人あたり療養者数	入院率	重症者数	人口10万人あたり自宅療養者数及び療養等調整中の数の合計値
	重症者用	10万人あたり	今週先週比						
レベル2の目安	15%	参考	15人	参考					
さらなる警戒強化	30%		30人						
レベル3の目安	50%		参考						
今週	31.8%	7.5%	415.15人	1.22	57.6%	415.1人	3.3%	5人	397.1人
	191床/ 601床	5床/ 67床	7,838人	7,838人/ 6,425人	7,550件/ 13,114件 (※)	7,838人	259人/ 7,838人		7,498人
	レベル2		レベル2						
先週比較	↑	↑	↑	↓	↑	↑	↑	↑	↑
時点	11/15		11/9~11/15		11/15				
11/3~11/9	22.6%	3.0%	340.31人	1.42	54.1%	340.3人	2.9%	2人	325.4人
	136床/ 601床	2床/ 67床	6,425人	6,425人/ 4,514人	6,425件/ 11,870件	6,425人	185人/ 6,425人		6,144人

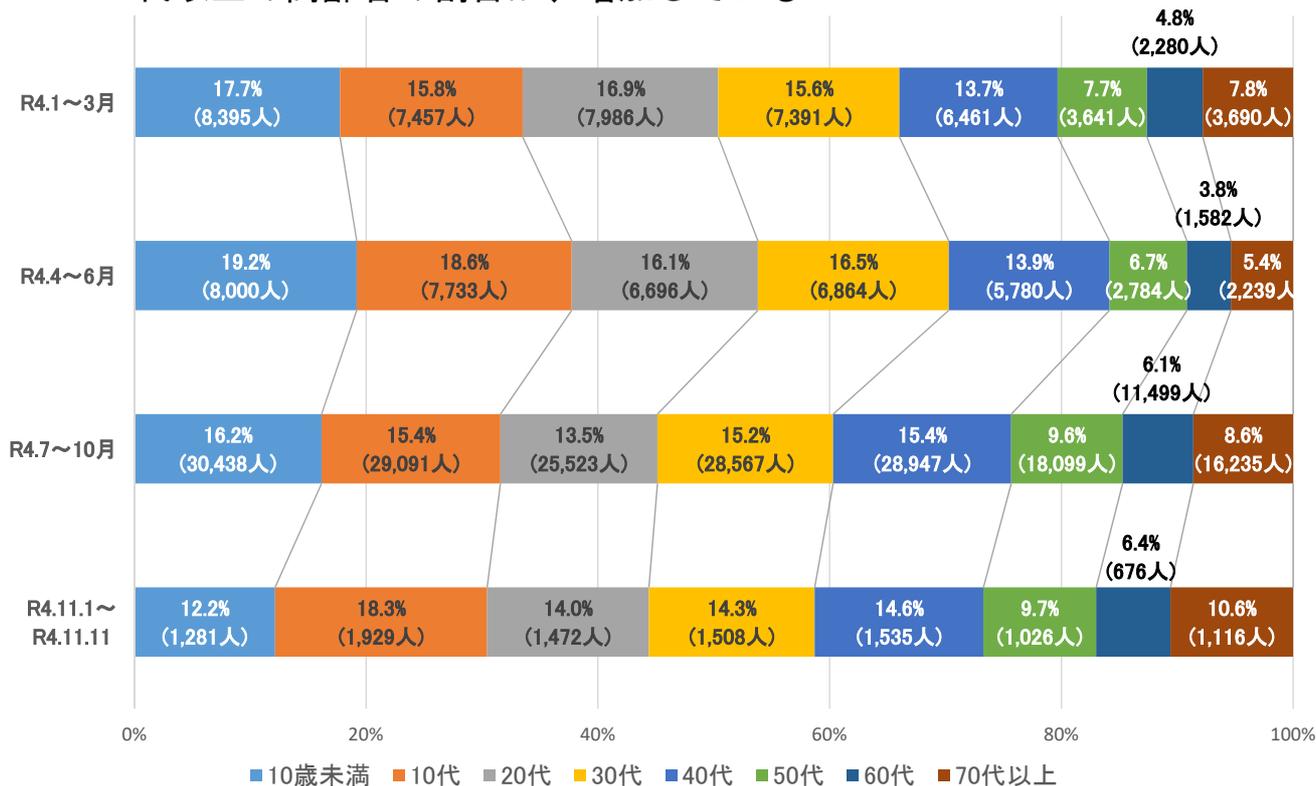
※ PCR等陽性率は、11/8~14の期間における(新規陽性者数)を(11月15日までに医療機関等から報告があった検査数)で除した割合。

なお、濃厚接触者を医師の臨床診断により、検査を行わず陽性者と判断(みなし陽性)する場合があります。



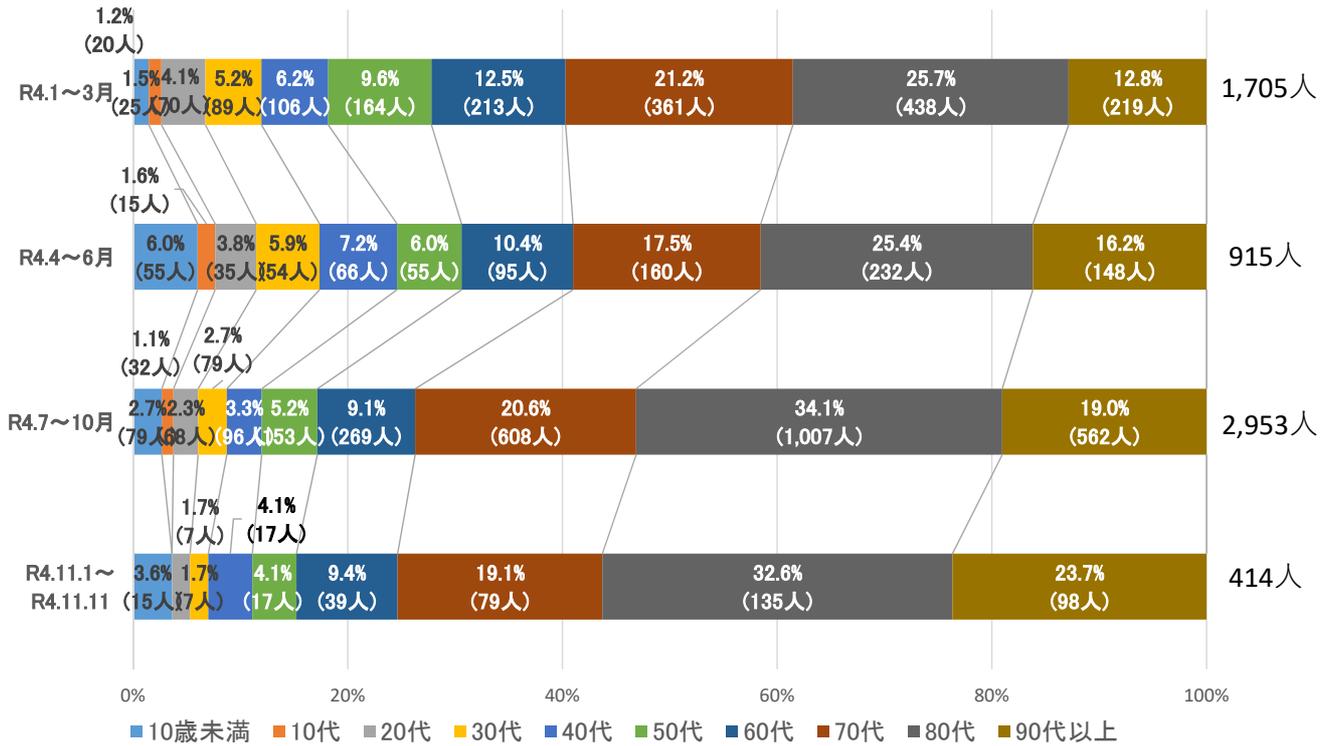
年代別新規陽性者数

70代以上の高齢者の割合が、増加している



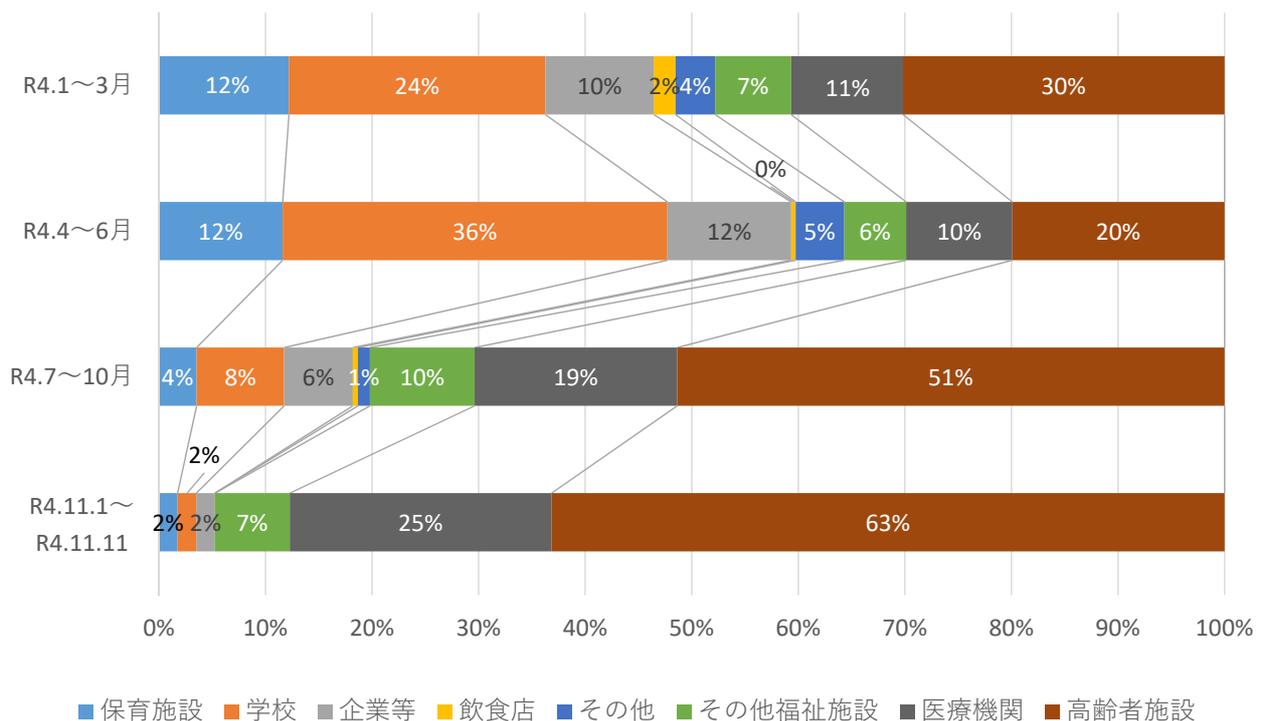
年代別入院者

70代以上の入院割合が高い状況が継続している



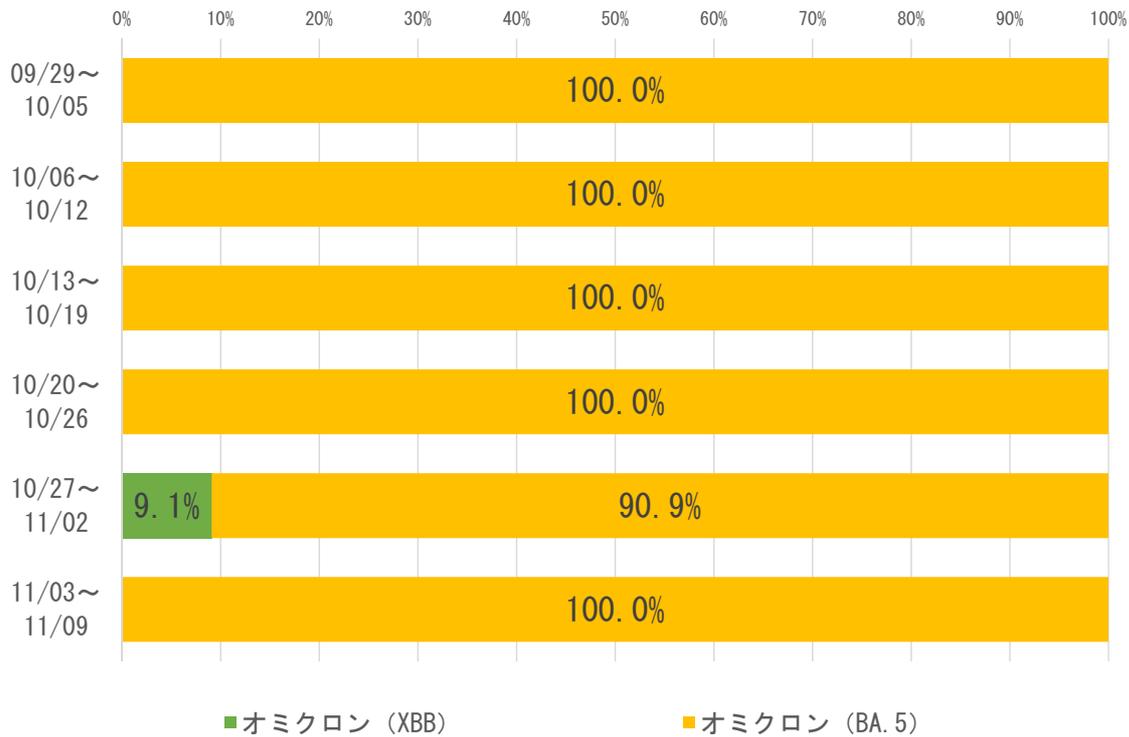
クラスター件数

高齢者施設、医療機関でのクラスターが増加している



オミクロン株のゲノム解析の結果

第7波以降、オミクロン株BA.5系統が主流となっている



ワクチン接種状況（11月15日時点）

● 接種状況 ※括弧書きは接種率

区分	人口※1	2回目	3回目	4回目	5回目
12~64歳	1,125,273	933,239 (82.9%)	716,476 (63.7%)	229,816 (20.4%)	2,835 (0.3%)
65歳以上	570,197	535,272 (93.9%)	517,641 (90.8%)	446,912 (78.4%)	34,341 (6.0%)
全年齢	1,879,187	1,488,600※2 (79.2%)	1,238,293※2 (65.9%)	676,728 (36.0%)	37,176 (2.0%)

● オミクロン株対応ワクチン接種（上記3~5回目接種に含まれる。）

区分	人口※1	接種回数	接種率
12~64歳	1,125,273	120,484	10.7%
65歳以上	570,197	68,575	12.0%
全年齢	1,879,187	189,059	10.1%

※1 人口は令和4年住民基本台帳年齢階級別人口（市町村別）令和4年1月1日時点による。

※2 全年齢の2・3回目接種回数には小児（5~11歳）を含む。

新型コロナウイルス感染症・ 季節性インフルエンザ 同時流行に備えた対応

同時流行の患者数の想定

新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザのピークが同時に重なった場合の1日あたりの最大患者数想定

	新型コロナ	インフルエンザ	計
想定条件	第7波の沖縄県のピーク時と同程度	過去8年間の最多数	
全国	約450,000人/日	約300,000人/日 (2019年1月)	約750,000人/日
岡山県	約 6,600人/日	約 5,300人/日 (2015年1月)	約 11,900人/日

※第7波における新型コロナウイルス感染症の最多新規陽性者数
4,399人/日 (2022/8/20)

医療提供体制

同時流行、第8波に備え、新型コロナ医療と通常医療との両立を鑑み、次の医療提供体制とする。

●診療・検査医療機関

	4 / 1	10 / 1	11 / 17
医療機関数	581 機関	615 機関	646 機関
増加数		+34 機関	+31 機関

●コロナ患者受入医療機関

	11 / 16 まで	11 / 17 から	増減数
確保病床数	601 床	599 床	-2 床
(うち重症者用病床)	67 床	67 床	±0 床
医療機関数	67 機関	68 機関	+1 機関
(うち重症者用病床)	11 機関	11 機関	±0 機関

診療・検査医療機関における休日診療体制の確保

休日（日曜日・祝日）において、発熱患者等の診療・検査を行う診療・検査医療機関（発熱外来）を支援し、医療提供体制を確保する。

次の条件をすべて満たす医療機関

対象医療機関

- ・診療・検査医療機関の指定を受けていること
- ・休日に3時間以上の診療・検査時間を確保すること
- ・かかりつけ患者だけでなく、初診患者の診療・検査を行うこと

※かかりつけ患者しか診療・検査を行わない場合は対象外

支援額

（3時間以上）10万円／日、（6時間以上）15万円／日
 ※小児の初診患者の診療・検査を行う場合は、5万円／日を
 加算

対象期間

- ・11月23日～令和5(2023)年1月末までの日曜日、祝日
- ・年末年始（12月29日～令和5(2023)年1月3日）

新型コロナウイルス感染妊婦、透析患者の医療提供体制の強化

新型コロナに感染した妊婦の分娩や透析患者を受入れる医療機関は限定されるため、妊婦の分娩や外来で透析を行う医療機関を支援する。

対象医療機関	①分娩対応支援 コロナ患者分娩対応を行った医療機関 ※ハイリスク分娩管理加算を算定する医療機関を除く。 ②透析対応支援 透析が必要なコロナ患者に対し外来透析を行った医療機関
--------	--

支援額	①妊婦1名/日 32,000円 ②透析患者1名 30,000円
-----	------------------------------------

対象期間	感染状況に鑑み、開始時期を決定
------	-----------------

高齢者施設等の従事者に対する集中的検査

4月以降入所系施設の従事者を対象とした集中的検査を実施しているが、12月、1月については、国からのキット配布を受け、対象施設を通所系、訪問系にも拡大し、検査回数を増やし、実施する。

対象地域	県内全域（岡山市及び倉敷市を除く） ※岡山市と倉敷市は各市の判断で実施
------	-------------------------------------

対象施設	入所系、通所系、訪問系の高齢者施設及び障害者施設 （約2,800施設）
------	--

対象者	上記施設の従事者
-----	----------

検査方法	対象施設に抗原定性検査キットを配布
------	-------------------

検査頻度	12月：1週間に2回、1月：1週間に3回 （10、11月は1週間に1回）
------	---

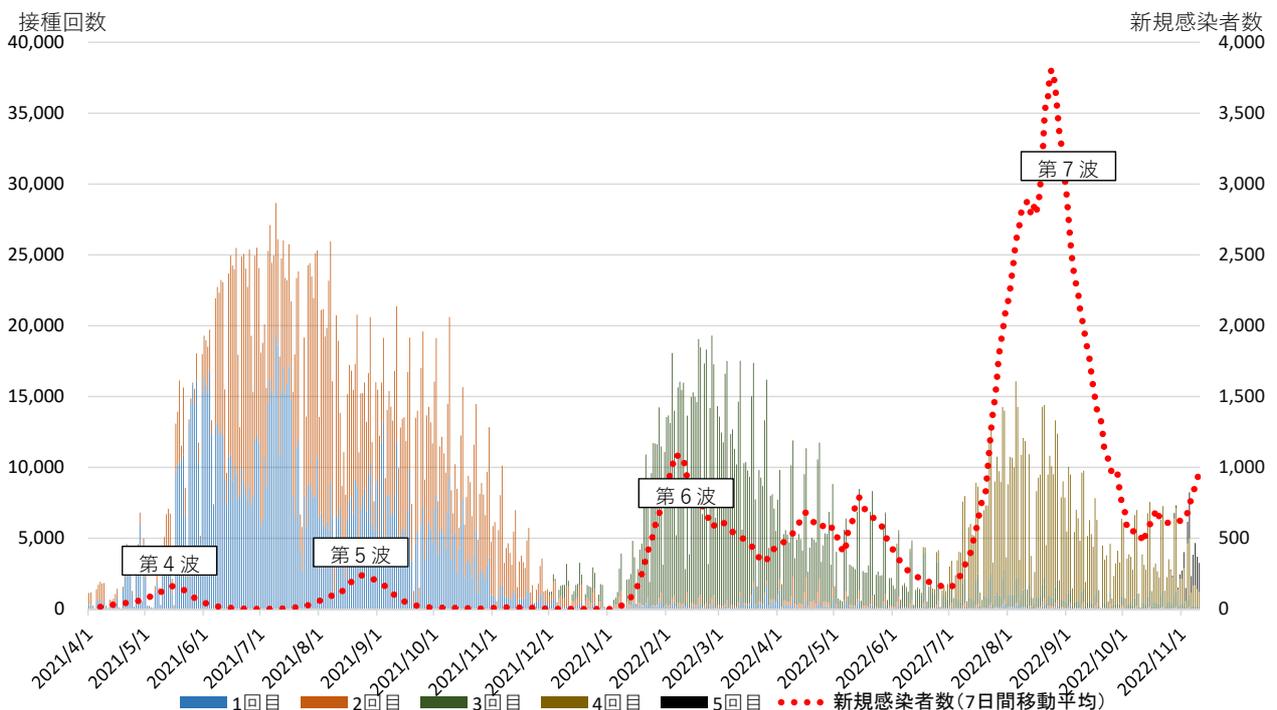
検査報告	キットを使用した施設は検査数及び結果を県に報告
------	-------------------------

実施期間	12月、令和5(2023)年1月
------	------------------

オミクロン株対応 ワクチンの接種促進

ワクチン接種と感染状況

- ・ 3回目接種のピーク（約2万回）と比べ、接種能力に余裕がある
- ・ 接種間隔が3か月に短縮されたことにより、今後、接種の増加が見込まれる



オミクロン株対応ワクチン 接種強化期間

～大切な人と安心して過ごすために～

実施期間：令和4（2022）年11月17日（木）

～12月30日（金）

主な取組：①広報活動

②接種機会の拡充

③高齢者施設への働きかけ

オミクロン株対応ワクチン接種強化期間の主な取組

①広報活動	<ol style="list-style-type: none">1 わかりやすい広報 中野貴司主任教授（川崎医科大学、厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会会長代理）によるQ A形式でのわかりやすい広報を様々な媒体を活用して実施2 街頭での広報 岡山シーガルズと連携し、11月21日（月）に岡山駅前で実施
②接種機会の拡充	<ol style="list-style-type: none">1 年末接種：県営接種会場（岡山県医師会館）<ul style="list-style-type: none">・日程 12月26日（月）～30日（金）の5日間（夜間）・種類 ファイザー（BA. 4-5）2 予約なし接種：県営接種会場（川崎医科大学総合医療センター）<ul style="list-style-type: none">・日程 12月の毎週金曜日 15：30～17：30・種類 モデルナ（BA. 4-5）3 大学出前接種 学生等をターゲットとして、12月に大学での出前接種を実施4 地元トップクラブチームと連携した取組 岡山シーガルズのホームゲーム開催時（11月27日（日））に臨時接種を実施
③高齢者施設への働きかけ	高齢者施設に対し、アンケート調査を実施し、調査結果に基づき個別ヒアリングによる年内接種の働きかけ

ワクチン接種促進カレンダー（12月）



参考資料

今秋以降の感染拡大で保健医療への負荷が高まった場合に
想定される対応

新型コロナウイルス感染症対策分科会
令和4年11月11日（金）

今秋以降の感染拡大で保健医療への負荷が高まった場合に想定される対応

- ① 今秋以降にオミクロン株と同程度の感染力・病原性の変異株による感染拡大が生じ、保健医療の負荷が高まった場合に想定される対応を以下の表において整理する。
- ② オミクロン株に対応し、外来医療等の状況に着目したレベル分類に見直した上で、各段階に応じた感染拡大防止措置を講ずる。
- ③ 医療負荷増大期においては、情報効果による個人の主体的行動につながる情報発信を強化するとともに、住民に対してより慎重な行動の要請・呼びかけを行うことを選択肢とした「対策強化地域（仮）」の枠組みにより、感染拡大防止措置を講じる。
それでも感染拡大が続く場合等には、医療のひっ迫が想定される前の段階で、住民・事業者に対して、人との接触機会の低減について、より強力な要請・呼びかけ（特措法24条9項の要請又は呼びかけ）を行う。（「医療非常事態宣言（仮）」）

	感染小康期	感染拡大初期	医療負荷増大期	医療機能不全期
オミクロン株対応の新レベル分類	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4（避けたいレベル）
保健医療の負荷の状況	・外来医療・入院医療ともに負荷は小さい。 (病床使用率概ね0～30%（最大確保病床ベース。以下同じ。）)	・診療・検査医療機関（いわゆる発熱外来）の患者数が急増し、負荷が高まり始める。 ・救急外来の受診者数も増加。 ・病床使用率、医療従事者の欠勤者数も上昇傾向。 (病床使用率概ね30～50%)	・外来医療の負荷が高まり、発熱外来や救急外来に多くの患者が殺到する、重症化リスクの高い方がすぐに受診できないという事象が発生。 ・救急搬送困難事例が急増する。 ・入院患者も増加し、また医療従事者にも欠勤者が多数発生し、入院医療の負荷が高まる。 (重点医療機関における医療従事者の欠勤急増、病床使用率/重症病床使用率 概ね50%超)	・膨大な数の感染者に発熱外来や救急外来で対応しきれなくなり、一般の外来にも患者が殺到する事象が発生。 ・救急車を要請しても対応できず、救急搬送困難事例の件数として把握できない状態が生じている。通常医療も含めた外来医療全体がひっ迫し、機能不全の状態。 ・重症化率は低くても、膨大な数の感染者により、入院が必要な中等症Ⅱ・重症者の絶対数が著しく増加。 ・多数の医療従事者の欠勤者発生と相まって、入院医療がひっ迫。 ・入院できずに、自宅療養中・施設内療養中に死亡する者が多数発生。 ・通常医療を大きく制限せざるを得ない状態。 (重点医療機関における医療従事者の欠勤急増、病床使用率/重症病床使用率 概ね80%超)
社会経済活動の状況	—	・職場で欠勤者が増加し始め、業務継続に支障が生じる事業者も出始める。	・職場で欠勤者が多数発生し、業務継続が困難になる事業者も多数発生。	・欠勤者が膨大な数になり、社会インフラの維持にも支障が生じる可能性。
(参考) 感染状況	・感染者は低位で推移しているか、徐々に増加している状態。 ※単純に感染状況で判断するのではなく、保健医療の負荷の状況、社会経済活動の状況等を踏まえて、都道府県が総合的に判断する。	・感染者が急速に増え始める。	・医療の負荷を増大させるような数の感染者が発生。	・今冬の新型コロナウイルス感染者の想定を超える膨大な数の感染者が発生。

	感染小康期	感染拡大初期	医療負荷増大期	医療機能不全期
国の対応			感染拡大が著しい都道府県が、「対策強化宣言（仮）」を行い、以下の対応を地域の実情に応じて実施。国は、当該都道府県を「対策強化地域（仮）」として位置づけ。（詳細は別紙参照）	
① 医療体制の機能維持	・同時流行への備えを呼びかけ（ワクチン接種、検査キットや解熱鎮痛薬の購入、相談窓口の確認等） ・都道府県等に対して発熱外来、電話・オンライン診療、健康F Uセンター等の体制整備等を依頼	・重症化リスクに応じた外来受診・療養の協力を呼びかけ ・都道府県等に対して発熱外来、電話・オンライン診療、健康F Uセンター等の体制の拡充を依頼 ・医療機関等への協力要請（感染症法16条の2）	・重症化リスクに応じた外来受診・療養の協力、救急医療の適正利用を強く要請・呼びかけ ・地域の感染状況に応じて、拡充された発熱外来、電話・オンライン診療、健康F Uセンター等の体制で対応 ・入院調整の適切な実施、医療従事者の欠勤状況も踏まえた病床確保のフェーズ引き上げを適切に実施 ・医療機関等への協力要請（感染症法16条の2） ・濃厚接触者となった医療従事者が待機期間中であっても医療に従事できる運用を可能な限り実施するよう医療機関に要請	・保健医療の対応が限界を超えた状態であることを周知し、理解を求める ・災害医療的な対応として、国・他の都道府県からの医療人材の派遣等を行う
② 感染拡大防止措置	・オミクロン株対応ワクチン接種の推進 ・基本的感染対策の徹底	・オミクロン株対応ワクチン接種の更なる推進 ・基本的感染対策の徹底 ・医療機関・高齢者施設・学校等の有効な感染対策（10/13コロナ分科会）に基づく対応をとることを促す	<p>➢ 新たな行動制限は行わず、社会経済活動を維持しながら、感染拡大防止を図る</p> <p>➢ 今夏の「B A 5 対策強化地域」における住民・事業者への要請・呼びかけの内容を基本としつつ、住民に対してより慎重な行動を要請・呼びかけることも選択肢とする</p> <p>【情報発信の強化】 ・住民に対し、感染拡大の状況、医療の負荷の状況を丁寧に伝えるとともに、協力を呼びかける。</p> <p>【住民に対して、慎重な行動を要請・呼びかけ（例）】（法24条9項又は呼びかけ） ・普段と異なる症状がある場合には、外出、出勤、登校・登園等を控えることを徹底する。 ・混雑した場所や感染リスクの高い場所への外出など、感染拡大につながる行動を控える。</p> <p>・特に、大人数の会食や大規模イベントへの参加は見合わせることも含めて慎重に検討判断。</p> <p>・学校・部活動、習い事・学習塾、友人との集まり等での感染に気をつける。</p> <p>【高齢者施設等の感染対策強化】 ・高齢者施設等の集中的検査の拡大・推進、利用者の節目での検査の実施等。</p>	<p>➢ 医療体制と社会経済の機能不全に対処するために、社会の感染レベルを下げるが必要</p>
③ 業務継続体制の確保等	— ・濃厚接触者の待機の取扱いについて検討	・各業界に業務継続体制の点検・確保を呼びかけ	<p>・多数の欠勤者を前提した業務継続体制の確保を促す</p> <p>・一時的に業務が実施できない場合があることやその時の対応について、事前に、住民や取引先、顧客等に示すことを促す</p> <p>・接触者に対する出勤停止を要請しないことを周知する</p>	<p>医療負荷増大期において、感染拡大のスピードが急激な場合や、左記の対策を講じても感染拡大が続く場合には、医療ひっ迫を回避するために、地域の実情に応じて、速やかに以下を実施</p> <p>【住民・事業者に対して、人との接触機会の低減について、より強力な要請・呼びかけを行う】（法24条9項又は呼びかけ） ⇒「医療非常事態宣言（仮）」</p> <p>➡ 外出・移動は必要不可欠なものに限ることを要請（出勤大幅抑制、帰省・旅行の自粛も要請）。</p> <p>➡ 飲食店や施設の時短・休業は要請しないが、外出自粛要請に関する理解を求める。イベントの延期等の慎重な対応を要請。</p> <p>➡ 原則として、学校の授業は継続。部活動の大会や学校行事等には開催方式の変更等を含め慎重な対応を要請。</p>

新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザの同時流行を見据えた知事メッセージ

新型コロナウイルス感染症の新規陽性者が増加傾向にあります。

また、この冬には、季節性インフルエンザとの同時流行が懸念されており、再び、医療提供体制がひっ迫する恐れがあります。

感染拡大防止と社会経済活動の両立を図るため、基本的な感染対策の徹底と同時流行への備えをお願いします。

○基本的な感染対策の徹底を

場面に応じたマスクの着用や、手洗い、手指消毒、3密（密閉・密集・密接）回避など、引き続き基本的な感染対策を徹底しましょう。

特に、暖房時でも定期的に空気を入れ替えるなど、換気を徹底しましょう。

○体調不良時の備えを

発熱等の体調不良時に備えて、抗原定性検査キット※や自宅療養に必要な解熱鎮痛薬等を、あらかじめ購入しておきましょう。

※「研究用」ではなく国が承認した「体外診断用医薬品」（医療用）

もしくは「第一類医薬品」（一般用）の抗原定性検査キット



県内の抗原定性検査キット（医療用）
販売対応薬局（岡山県薬剤師会）

○早期のワクチン接種を

新型コロナウイルス感染症、季節性インフルエンザそれぞれのワクチンについて早めに接種しましょう。

・新型コロナワクチン

発症や重症化を防ぐため、オミクロン株対応ワクチンの早めの接種をお願いします。

・インフルエンザワクチン

接種を希望される方は、早めの接種をお願いします。

令和4（2022）年11月17日

岡山県知事 伊原木 隆太